

シドニー派遣の今後の生かし方

名古屋市立山田高等学校 3年 加藤 菜月

1. 私の研修の目標

私の得意科目は英語で、将来は英語教師になりたいと思っています。自分の英語力を試し、生かしたいと思い応募したのがこの海外派遣事業でした。

両親がオーストラリアに行ったことがあり、親戚の友人にもオーストラリアの方がいたため、以前からオーストラリアに興味を持っていました。

調べているうちに、都市部でも水不足が深刻な問題となっていることを知りました。今までのオーストラリアのイメージは豊かな自然があることだったので、それを知って驚きました。

そして、もし自分が行くのであれば、自分の英語力を生かすと同時に、現地に行ってその状況を確かめたいという目標ができました。

2. 事前の準備

オーストラリアではアメリカ英語と違った訛りがあるということを知り、事前研修でオーストラリア人の先生がいらっしゃったときにスラングも覚えようと思いました。

また、水不足についてホームステイ先で聞けるようにそれに関する英単語も使えるようにしました。

3. シドニーでの体験

シドニーに到着してからは、現地の高校への体験入学やホテルでのミーティングであつという間に一日が終わっていきました。そんな中でも、積極的に英語で話しかけたり、水の使用状況について観察したりしていました。

学校には、多国籍文化を象徴するように、様々な民族の生徒がいました。日本の学校との違いは、生徒が皆パソコンを持っていたり、授業の合間に休み時間がなかったりすることなど様々ありました。

水不足問題としては、学校やホテルなどの公共施設では優先的に水が回るらしく、特に困っている印象は受けませんでした。ただ、日本の学校よりも校

舎はかなり広いのにトイレや水道ははるかに少ないと感じました。

また、ホームステイでは、家庭の水の使い方に注目しました。私がステイさせていただいた家には、バスルームが2つもありました。ホストファミリーが好きに使っていいよ、と快く言ってくださり、あまり不便を感じることはありませんでした。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

シドニーでの10日間で、初めのほうは店員さんの易しい英語すら聞き取れずに落ち込んでいました。しかし日数や会話の回数を重ねるごとに、自分の言いたいことが言えるようになってきました。英語だけで過ごす学校生活やホームステイで、私の英語力と積極性は確かに向上しました。

<課題>

今回の派遣で、水不足については思ったような成果が得られませんでした。下調べは十分にしていきましたが、季節が冬だったということもあってか、私自身で水不足を体感することはあまりありませんでした。

また、会話については、私が準備してきた質問を聞いて返事を得ても、それに対する新たな疑問がわいたときや、相手から「あなたはどうかの？」と聞かれたときに言葉に詰まってしまうことがありました。私の課題は、自分の質問だけで終わらずに会話を続け、聞きたいことや知りたいことを今以上に表現できるような英語力を身につけることです。



Wenona School での授業風景